

1. 設置目的

大学におけるIR（Institutional Research）とは、学内及び学外の組織や教育・研究等で蓄積された情報を収集・分析し、そこから導き出される結果から、学内での意思決定や改善活動を立案・実行・検証するための支援を行う活動を指します。

浜松学院大学では、平成17年3月に設置された「自己点検・評価委員会」の業務が発展し令和4年4月からIR業務についても統括することとなり、教員の教育負担、研究費獲得、研究成果等のデータ収集・分析・施策検討を進めることとなりました。

本学が今後も地域に立脚した高等教育機関でありつづけるために、教育及び学生支援のさらなる充実、研究力の一層の強化、地域・産学官連携、財務・業務基盤の強化を推進するためエビデンス情報に基づく教育・研究・社会貢献・財務活動等の目標設定や戦略の立案が今後ますます重要であります。

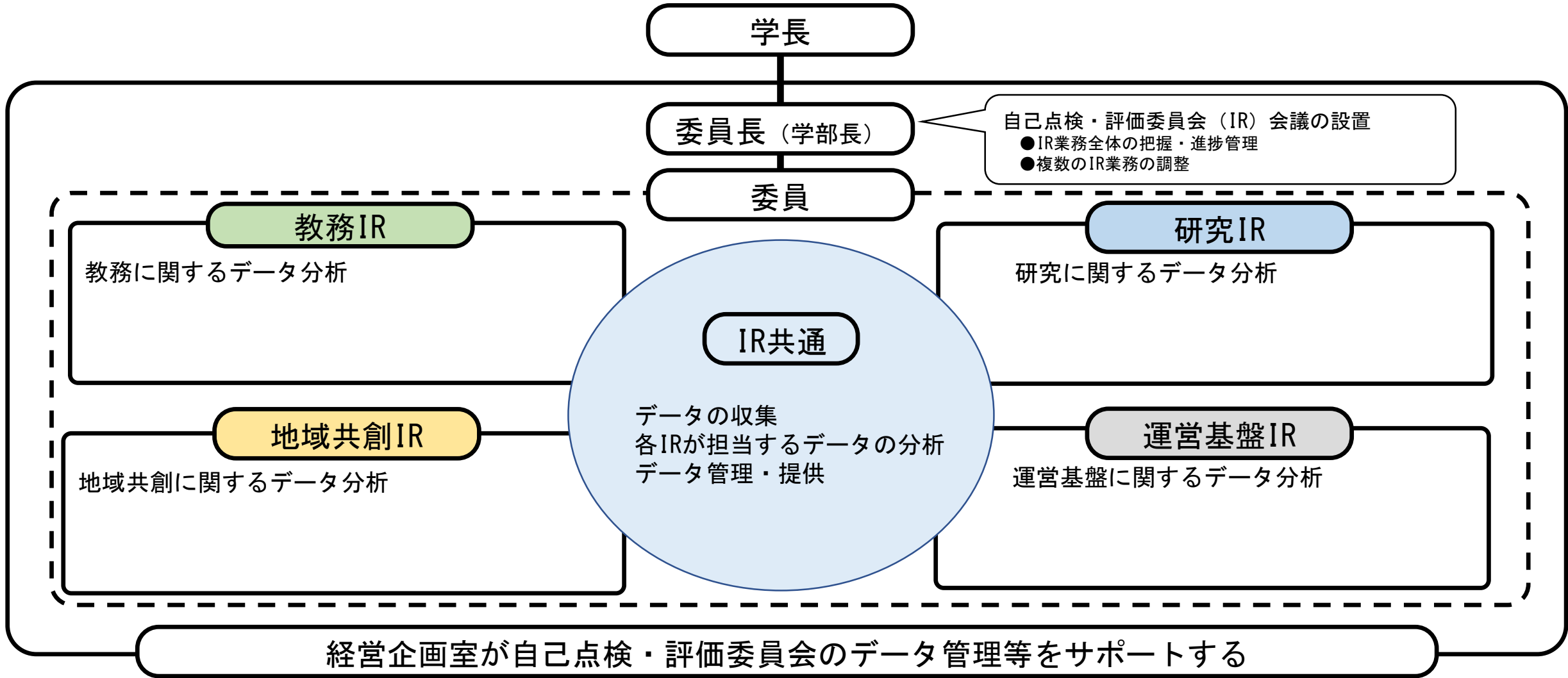
「自己点検・評価委員会」は学内及び学外の組織や教育・研究等に関する情報を収集・分析し、当該分析結果に基づく提案をするために今後も更なる充実を図ってまいります。

2. 浜松学院大学のIRの概要

本学のIR業務は、大きく分けて4つの分野のIRを実施します。

教務IR	学士課程レベルの質保証を積極的にサポートし、教育及び学生支援のその集合体としての大学全体の質保証に寄与することを目指します。
研究IR	学内外のデータベースの様々な情報から、研究戦略、重点研究分野、研究力評価等における活用を目指します
地域共創IR	地域連携及び産学間連携に関する分野などの様々な取組をデータベース化し、新たな社会連携・地域貢献の取組への活用を目指します。
運営基盤IR	業務運営・財務・施設の状況に関する分野のIR。教務、研究及び地域共創等の各業務運営の状況と関連付けて、より効果的・効率的な大学運営に活かすことを目指します。

自己点検・評価委員会は、IR活動を主導する委員長のほか教員及び職員で構成されており各部局からの協力を得てIR業務に必要なデータを収集、加工、分析、提供していきます。

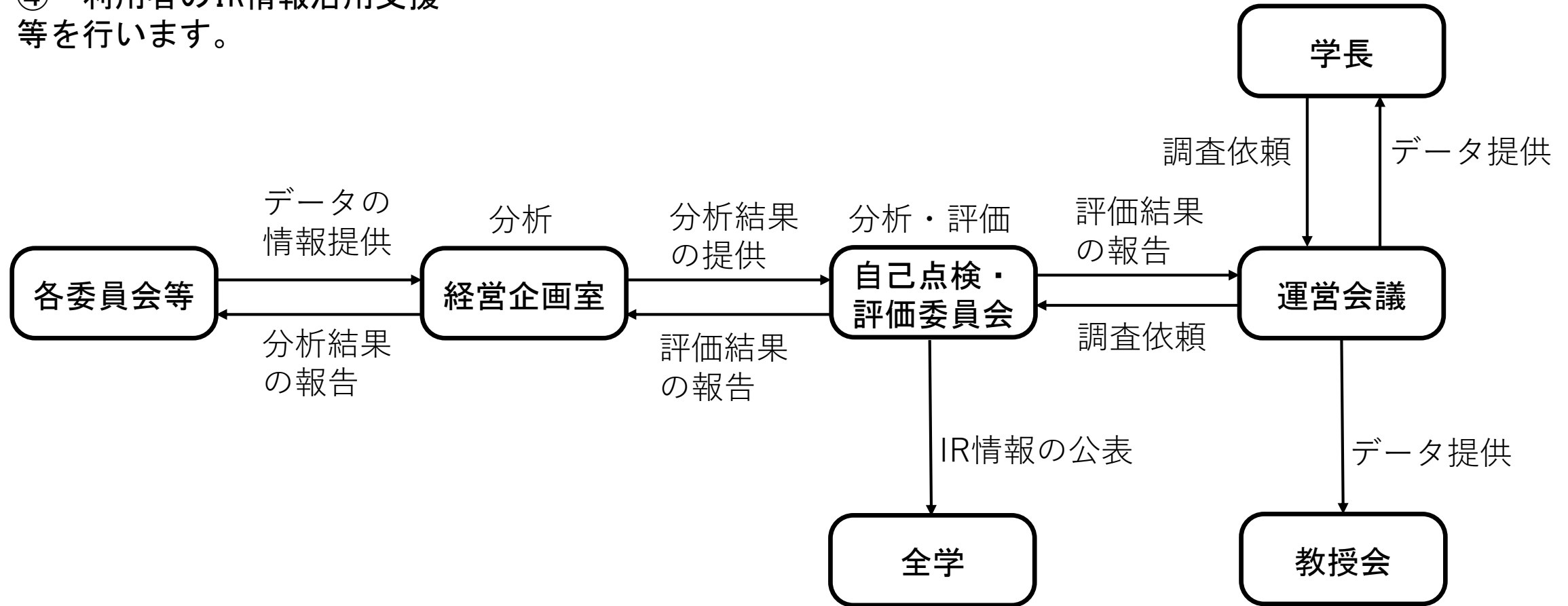


4. IRの学内組織との関係図

自己点検・評価委員会は、上記4分野のIR活動のデータ・情報の収集、加工、分析、提供等を行い、

- ① 学長・運営会議等の執行部や、各委員会活動の意思決定等のサポート
- ② 分析結果のレポート作成・提供及びレポートに基づく施策提言
- ③ 要望に応じた分析結果レポートの作成
- ④ 利用者のIR情報活用支援

等を行います。



浜松学院大学では、半期ごとに学生による授業評価アンケートを実施しています。

その結果を分析して教員へフィードバックし、教員は自己点検を行い、「自己点検・評価報告書」を作成することで、次年度に向けての授業改善を行っています。

これらは全教員、全科目で実施し、全学的に教育改善を図っています。

浜松学院大学ホームページ 授業評価アンケート結果の公表

<https://www.hamagaku.ac.jp/hgu/guide/work-sheet/>